

「発達障害児者の個人特性に応じた教育支援システムの開発研究」についての概要

研究代表者 : 小越 咲子 (国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校)
 参画研究機関名 : 国立大学法人福井大学、ミテネインターネット株式会社
 研究開発期間 : フェーズⅠ 平成28年度
 フェーズⅡ 平成29年度～平成30年度

【目的】 発達障害者の長期的継続的支援について、下記の観点から実現する支援システムの研究開発を行う。

【フェーズⅠ】

1. 学校・家庭・民官の専門機関の連携したICT協働基盤の構築
2. IoT技術を用いた行動データ収集の仕組みの開発・実装
3. ビッグデータ分析による個人の特性に適した支援教材の導出

【フェーズⅡ】

4. 脳情報を用いた認知特性の解明とBMI教材の開発
5. ICFコード*を用いたシステム連結によるニーズと支援のマッチング
6. 個人の特性に適した個別教育支援計画と支援の提案

【概要（新規性）】

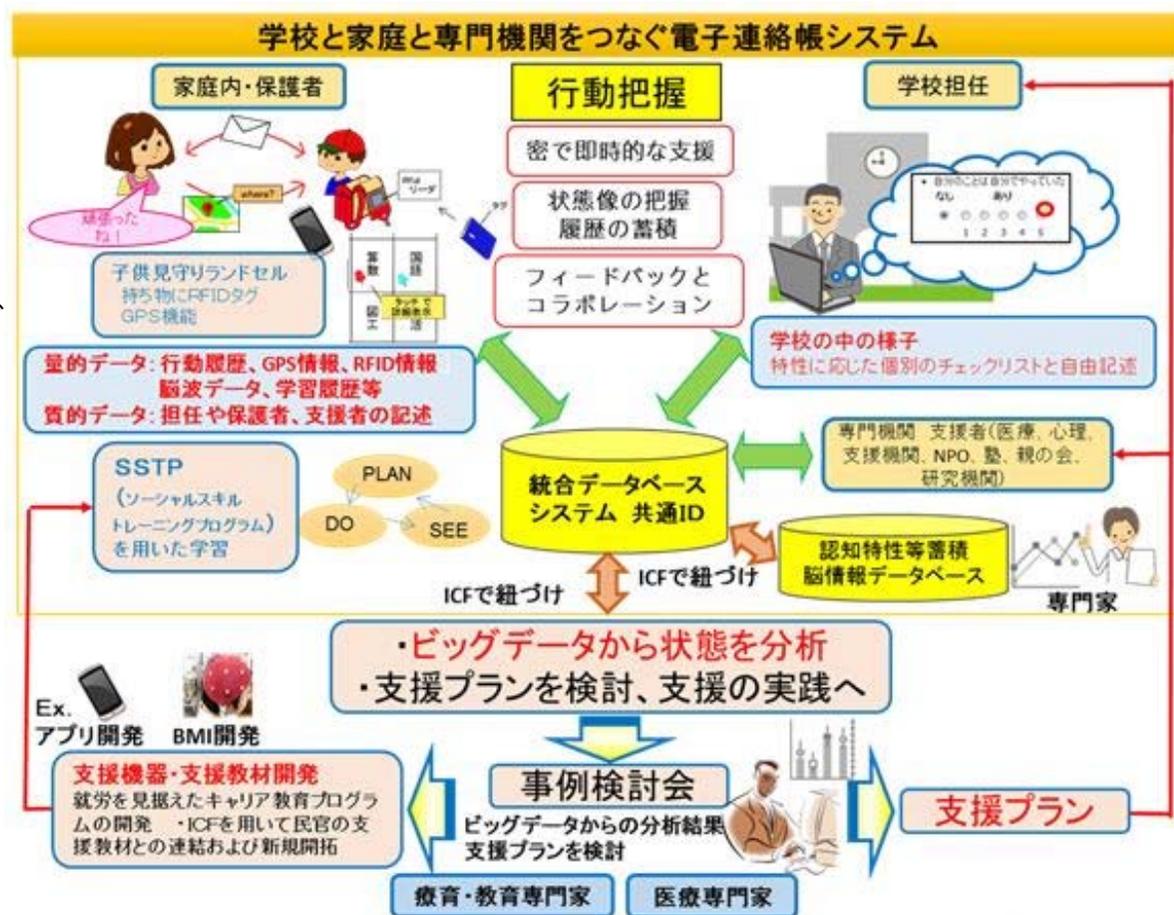
1. 脳科学と情報科学の手法・知見の活用
2. 学校・家庭・民官の専門機関の連携・協働による密で広範囲の時系列データを用いた個別ニーズに応じた即時的・動的支援計画の作成・人間の行動、環境、状態、支援方法へのICFコードの紐付け

【実施内容】

当事者・支援者を支援するITプラットフォームの構築
 ビッグデータ解析から即時的動的な教育支援方法の導出

【期待される効果・社会的意義】

発達障害は状態像のつかみにくさ等の理由により、現在、各自の特性に応じた即時的な支援が不十分である。
 さらに現在発達障害者の就労の問題が大きな課題であるが、短期的な効果として、即時的な支援の実現、長期的には本システムによる早期からの密な支援により、発達障害者の就労率向上に貢献できる。



*International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF)はWHOで制定された、「生活機能・障害・健康の国際分類」で「健康状態」「心身機能・構造」「活動」「参加」「環境因子」「個人因子」を表現するコード